

船舶事故調査報告書

平成29年6月22日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	浸水
発生日時	平成29年1月18日 10時00分ごろ
発生場所	北海道白老町白老港北東方の海岸付近 開発局白老高砂沖人工リーフB灯標から真方位030°670m付近 (概位 北緯42°32.7′ 東経141°21.3′)
事故の概要	作業船ツカサ号は、漂流中、磯波が打ち込んで浸水した。
事故調査の経過	平成29年1月18日、主管調査官（函館事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	作業船 ツカサ号、5トン未満（長さ4.87m） 202-24北海道、株式会社ツカサ技研
乗組員等に関する情報	船長、二級小型・特殊・特定
負傷者	なし
損傷	船外機に濡損
気象・海象	気象：天気 曇り、風向 北東、風力 2、視界 良好 海象：波高 約0.5m、潮汐 下げ潮の中央期、水温 約6℃
事故の経過	本船は、船長、甲板員及び測量作業者が乗り組み、測量の目的で白老港北東方の海岸付近で船首を陸岸に向けて漂流中、船尾方から磯波を受けて陸岸付近に押し寄せられた際、測量作業者が落水し、その後、船尾方から舷縁を越える第2波及び第3波を受け、打ち込んだ海水が船内に滞留して船尾部が沈下し、水船状態となった。 船長及び甲板員は、危険を感じて海に飛び込み、測量作業者と共に陸岸に泳ぎ着いた。
分析	本船は、海岸付近で船尾を沖に向けて漂流したことから、船尾方から舷縁を越える磯波が打ち込み、浸水したものと考えられる。
原因	本事故は、本船が、海岸付近で船尾を沖に向けて漂流したため、船尾方から舷縁を越える磯波が打ち込み、浸水したものと考えられる。
参考	今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。 ・海岸付近で漂流する際は、船首を沖側に向けた状態を保持することが望ましい。